

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105016
法人名	社会福祉法人道真会
事業所名	グループホームはぶやま
所在地	松山市高岡町779番地6
自己評価作成日	平成23年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年1月18日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>管理栄養士による献立で、栄養管理が来ている。団地内にあり、山を背にして、季節の変化を体感できる静かな環境にある。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>●ご自宅が事業所近くにある利用者とは、歩いてご自宅を見に行かれたり、馴染みの神社や海岸周辺、昔は映画館だった場所等、利用者の年代にとって懐かしい場所をドライブして巡り、思い出話を楽しまれている。その折に撮った写真を、後日見ながら、お話しをされると、他の利用者の方も興味を持つようになり、今では、みなが交代で出かけるようになられたようだ。</p> <p>●利用者同士で食べ物の話しをしていて、カップラーメンを食べてみたくなって、買いに出かけて作って食べてみられた。調査訪問時、利用者は「みんなで分け合って食べたのがとても美味しかった」と話してくださった。</p> <p>●事業所は、山に近い立地のため、土砂くずれ等も想定して対策を立てておられる。大雨の際には、自治会長や地区の防災士の方と連携を取り、山の状況や水量の情報収集を行っておられる。地区の緊急連絡網には、事業所も入り、連携する体制が作られている。年2回の避難訓練では、出火場所の想定を変えたり、毛布を使って2階から利用者を降ろす訓練をされた。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. <b>家族の2/3くらい</b> 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. <b>毎日ある</b> 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. <b>数日に1回程度</b> 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. <b>あまり増えていない</b> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目：11, 12)	○	1. <b>ほぼ全ての職員が</b> 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. <b>家族等の2/3くらい</b> 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームはぶやま

(ユニット名) 花組

記入者(管理者)

氏名 柳原 ゆかり

評価完了日

平成23年 12月 20日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) ホールや事務所に掲示しており、朝の申し送り時の斉唱をはじめ各職員がいつも念頭に置き、日々のケアの中で実践に取り組んでいる。	
			(外部評価) 管理者は、職員と思いをひとつにして、「利用者の穏やかな暮らしを支えていきたい」と考えておられ、「素直、反省、感謝、謙虚、奉仕」の「五つの心」を心がけて、「いつも笑顔 優しさ 思いやり」という事業所理念の実践に取り組んでおられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地区自治体の公園掃除や夏祭りに参加したり、周辺を散歩や、近所のスーパーへ買い物に出かけている。また、建物前、道路に面した場所に季節の花を植えて地域の方に散歩中楽しんで頂いたり、一階玄関前のベンチは休憩所として使用してもらっている。	
			(外部評価) 近所の方とは、散歩時、あいさつを交わしたり、時には事業所前のベンチで利用者とおしゃべりされている。地区の集会所で、認知症サポーター養成講座が開催された際には、職員も参加して、地域の方から介護について相談をお受けしたり、認知症の対応についてアドバイス等をされた。講座後、希望者には事業所を見学していただき、事業所のケアの様子を実際に見ていただいた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 定期的に「はぶやまだより」を発行し、配布している。地域の方にも行事等に参加をお願いし、日常の見学をしてもらったり、地域で行われた認知症サポーター養成講座にてグループワークに参加し地域の方の率直な気持ちや考えを聞き、話し合う事ができた。	今後さらに、利用者が、地域の方達と交流する機会が増えるよう、地域行事・事業所行事の機会を活かして、取り組みをすすめていかれてはどうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 前回の会議の概要説明、近況報告、その時の議題など、地域住民、利用者の家族、行政、事業者が集うばとして意見交換を行い要望あれば必ず事業所内で話し合いの場を持ち、解決につなげていくようにしている。	
			(外部評価) 職員は、自治会の役員や民生委員の方のご自宅を訪問して、会議の案内をされている。会議時に、肩こり体操や健康教室を行ったり、地区の防災訓練に参加した際のことも報告された。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) サービス事業者会議には、管理者が出来るだけ参加するようにしている。他、市の担当者に介護保険の事や、生活保護受給者の生活について相談している。	
			(外部評価) 運営推進会議には、市や地域包括支援センターの担当者が参加して下さっており、防災訓練については、事業所の立地条件等も踏まえたアドバイスをくださった。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修やマニュアルでは勉強はしているが、難しい部分もあり、まだ理解は不十分な点がある。基本的に身体拘束はしていないが、やむを得ない場合は、家族に十分に説明、理解を得ている。	
			(外部評価) 利用者の気分が落ち着かないような場合、時には、利用者を散歩に誘う等して、気分転換できるよう支援されている。「傷を搔かないように」、現在、両手に布製ミトンを付けている利用者も見られる。職員は、ご本人の気がまぎれるように、楽しく会話できるよう話題を工夫されたり、ご本人が集中できることを探して、かかわっておられる。食事時は、ミトンを外して食事されている。夕方や職員の人数が少ない時間帯には、ユニット出入口を施錠されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ワーカー会や勉強会、日々の業務の中で、意見や情報交換をし、より良いケアを提供できるよう職務内容の見直しをしている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ワーカー会で話し合う機会はあるが、内容を理解できてない点もある。以前、実際に利用者に活用されており、直接の対応は管理者が行っていたが、その内容は職員にも報告があった。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ケアマネージャー、管理者、家族、可能ならば利用者本人と出来る限りの話し合いの場を持ち、理解と納得を図るよう努めているがまだ家族の中で不安な気持ちを持ったままにいる事もある。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 各フロアー入り口に意見箱を設置しているが、思うようには活用されていない。毎月、各家庭に送る「小口預かり金」の明細と一緒にお手紙や写真をそえ、家族との繋がりを深め、こまめにお電話をかけさせていただき、日々の様子をお知らせし、意見を伺うようにしている。要望に対し、改善案を出し、実行している。 (外部評価) ご家族の来訪時には、職員は必ずあいさつをして、利用者ご本人の暮らしの様子を報告し意向を聞く等、ゆっくりお話しする時間を持つ等して、「家族との距離を縮める」取り組みを重ねておられる。ご家族から、「運動を増やしてほしい」という意見があり、事業所では、ラジオ体操や食後の歩行訓練を行う機会を作ったり、みなで「風船バレー」を行い、手足を動かしながら楽しむ機会を作っておられる。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	日頃より、どんな小さな事でも報告、連絡、相談を密にするよう心掛けている。月に一度のワーカー会では、職員間で話し合う機会を持ち、少しでもケアの改善に繋げていけるように、また良い意見があれば、まず実践をしている。
			(外部評価)	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	年二回、個々で記入する(自分で自分を評価する)業務・評価シートを作成している。その中で各自が目標を立て、職務についている。毎月の希望休や、有休も必要に応じて取り入れている。
			(外部評価)	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	職員のスキルアップには積極的に取り組んでいる。今後は、計画的に職員全員でケアの不十分な点を重点的に研修を受けていく予定である。勤務のひとつとして研修を受ける事もあり、技術向上に繋げている。
			(外部評価)	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	管理者同士の会合や、交流会、外部研修等に積極的に参加をし、知り合う機会を作っている。今後は、相互の間での見学や訪問を現実のものにしていきたい。
			(外部評価)	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	調査票に目を通し、過去の本人の生活の様子、状態等を把握している。声かけを多くし、行動を見ながら安心して過ごせるよう努め、職員間で連絡を密に取り、本人の要望に素早く応えられるようにしていきたい。
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時に、まず管理者と家族が話し合う機会を持ち、安心できるように努めている。面会時、気がついた事を報告したり、要望があるかなどを尋ね、お互いに解決に向けた話し合いを多く持っている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族、本人からの聞き取りや、本人の特徴、状態をよく理解しておき、日常時の観察を密にし、何が必要なのかを見極め、支援に繋げている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者一人一人の日々の生活ぶりを常に確認し、意思を尊重しながら、喜怒哀楽を共にして学びながら感謝の気持ちを忘れないように接している。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 行事がある時は、一緒に参加してもらったり、相互で本人にとって何が必要かを密に相談しながら、関わりを多くして頂く働きかけをしているが、理解をもらえない家族もいる。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会時には本人との大切なひと時をゆっくりと過ごしていただけるよう配慮している。家族や知人の方との外出・外泊・お墓参り等の支援もある。 (外部評価) ご自宅が事業所近くにある利用者とは、歩いてご自宅を見に行かれたり、馴染みの神社や海岸周辺、昔は映画館だった場所等、利用者の年代にとって懐かしい場所をドライブして巡り、思い出話を楽しまれている。その折に撮った写真を、後日見ながら、お話しをされると、他の利用者の方も興味を持つようになり、今では、みなぎ交代で出かけるようになられたようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ホールには大きなソファが置いてあり、個々の好きな時間に一緒に過ごせるようにしている。どこにいてもホール全体を見渡す事ができる。仲の良い方同士、励ましあったり、悩みを相談したりされる姿も見られる。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 本人、家族の意向を大切にしながら、電話をかけたり、手紙のやりとりをしたりと、必要に応じて相談や支援に努めている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の中で本人との会話やふれあいを多くし、その中から希望や意向など具体的な事を聞き取り、実現に向けて出来る事から支援している。意思疎通の困難な方は、表情や動作から気持ちを汲み取るよう心掛けている。 (外部評価) 年に1回、フェイスシートを取り直して、新しい情報を収集されている。利用者とのお話の中で得た情報は、センター方式を利用してアセスメントされており、干し柿や漬け物を手作りされていたことや油絵がお上手等、利用者個々に得意なことや以前の様子について発見もあり、そのような情報をもとにして、ご本人のできそうなことを探り、支援されている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 調査票の把握、本人と家族からの話しや、前施設の情報など、一つでも多くの情報を全体で共有するよう努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の一日の様子をこまめに観察し、生活記録や生活日誌に状態を記録、残している。気が付いた事も記録に残すようにしている。センター方式を活用し、個人の思いや現状の把握に努めている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	(自己評価)	
			<p>約三ヶ月に一度、カンファレンスを実施している。家族の参加はほとんどない。たまに本人参加はある。支援内容は、毎日チェックしており、次回の介護計画につなげている。状態変化のあった時はその都度新しく見直しをしている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>ご家族や利用者の意向を踏まえて、介護計画を作成しておられる。又、介護計画の支援内容については、毎日 × でモニタリングされている。介護計画作成前には、モニタリングに沿って評価して、計画を見直しておられる。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	(自己評価)	
			<p>個別に毎日ケアプランに対し、評価をしている。生活記録や日誌は、出来るだけ細かく記入するようにしており、個別のケースファイルにも記録をしている。問題点などは意見交換をし、見直しや実践に活かしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>本人や家族の話を聞き、色々な工夫をしながら、職員間でよく話し合い、出来る限り希望に添えられる対応が出来るよう支援している。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	(自己評価)	
			<p>何がしたいか、何が出来るかを見極め、畑仕事、お手伝い、掃除などを、楽しみながら一緒に出来る事を提案している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援                      受診は、本人及び家族等の希望を大切に、                      納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を                      築きながら、適切な医療を受けられるように支援                      している</p>	<p>(自己評価)                      母体医院がかかりつけ医となっており、月に二回の訪問診                      療を始め、体調不良や不安事項のある時は24時間いつで                      も相談、受診できるようになっている。他、状況に応じて本                      人・家族の希望により、眼科、皮膚科等の専門医は入所前                      からのなじみの病院で受診もしている。</p> <p>(外部評価)                      体調面で気になるようなことがあれば、主治医が直接ご家                      族に電話連絡して状態を説明されている。ご家族は、主治                      医に直接、相談したりアドバイスを受けられることが、安心に                      つながっているようだ。入居前から診てもらっている専門医                      を受診される場合には、ご家族が付き添われているが、都                      合によっては職員が同行してご家族に報告されている。</p>	
31		<p>看護職との協働                      介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報                      や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師                      等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受                      診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)                      急な発熱や体調の変化が見られた時は、その都度、主治                      医や看護師に電話をして聞いたり、訪問診療の時に相談、                      指示を仰いでいる。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働                      利用者が入院した際、安心して治療できるよ                      うに、また、できるだけ早期に退院できるように、                      病院関係者との情報交換や相談に努めてい                      る。または、そうした場合に備えて病院関係者との                      関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価)                      日頃より、利用者の健康状態はよく観察し、報告している。                      入院を必要とした場合、それに至るまでの状況等の情報を                      提供すると共に密に連絡を取り合っている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援                      重度化した場合や終末期のあり方について、早                      い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事                      業所でできることを十分に説明しながら方針を                      共有し、地域の関係者と共にチームで支援に                      取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)                      職員間で勉強会や話し合いはしているが、心構えは出来て                      いない。重度化する前に入院などされるので、実際の支援                      はまだしていない。今後、関係者間でお互いの意向を尊重                      しながら、施設の方針を共有し出来るだけ、希望に応えられ                      るように全力で取り組んでいきたい。</p> <p>(外部評価)                      入居契約時、終末期のあり方について利用者ご家族の希                      望をお聞きしているが、これまで「事業所で最期まで」と希                      望される方はおられないようだ。持病がある利用者も多く、                      状態変化時には、近くにある母体病院へ入院となるケース                      が多い。入院中は、職員はお見舞いに行かれたり、最期                      は、付き添われることもある。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成している。個々で学んだり、ワーカー会や勉強会での話し合いは定期的に行っている。しかし、実践となると慌ててしまい、冷静に対応できない時もあるので、確実な実践力を全員で身につけていきたい。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを作成している。定期の消防訓練・避難訓練をしており、昼夜両方の対応を勉強している。地区の防災訓練にも参加し、地区の防災士等にも施設内の見学や話し合いをし、お互いに協力や体制をつくる事に努めている。災害時の訓練もあわせて行っていきたい。 (外部評価) 事業所は、山に近い立地のため、土砂くずれ等も想定して対策を立てておられる。大雨の際には、自治会長や地区の防災士の方と連携を取り、山の状況や水量の情報収集を行っておられる。地区の緊急連絡網には、事業所も入り、連携する体制が作られている。年2回の避難訓練では、出火場所の想定を変えたり、毛布を使って2階から利用者を降ろす訓練をされた。	避難訓練を地域やご家族も一緒に体験されたり、利用者の状態や天候、季節、いろいろな災害の場面を想定して避難訓練を重ねていかれてほしい。課題を明らかにして、さらなる利用者職員の安全安心への取り組みをすすめていかれてほしい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩であるという尊敬の念を持ち、優しく丁寧な言葉かけや対応を常に心がけているが、忙しい時は、つい言葉が雑になってしまう時がある。 (外部評価) 職員は、よく利用者に声をかけるようにされている。3階のトイレのドアが現在、故障しており修繕をお願いされているが、修繕されるまで利用者のプライバシーに配慮して、のれんをかけておられる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) まず、本人の声を聞くように心がけている。その会話の中で、本人の思い等を探すようにしている。意思疎通の困難な人は、表情や仕草から気持ちを汲み取るようにしているが、職員側で決定する事が多い。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の流れは、大まかに決まっているが、その中で体調に合わせてながら個々のペースで過ごしている。自己決定が出来ない方は職員側で無理のない一日を過ごせるよう、手助けしている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 可能な方は、自身で服を選んで頂いている。出来るだけ、その人らしさが出るように支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 簡単な食材の下ごしらえや、お手伝い、時には野菜の皮を包丁で剥いてもらったり、料理方法を話しながら調理をしたり、食事中に音楽を聞きながらゆっくりと食べていただいている。介助を必要とする方がいるため、早出者のみ一緒に食事をしている。職員は検食のため利用者と同じものを少量ずつたべている。	法人の方針もあり、食事中、職員は、利用者のサポートに徹しておられる。「利用者が食事を楽しむことのできる支援」について、事業所では、どのような支援ができるかグループホームならではの支援について、話し合われてみてはどうだろうか。
			(外部評価) 法人施設の管理栄養士が立てた献立に沿って、事業所で食事作りされている。食材は、法人栄養士が注文してくれ届くようになっている。昼食時には、職員は、旧正月にどんなお餅を搗くか、利用者に相談されていた。利用者の状態に応じてミキサー食にされたり、スプーンを使っている方も見受けられた。湯のみは、それぞれのお気に入りのものを使っておられる。食後、下膳される方、テーブルを拭いてくださる方もあった。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 母体施設の管理栄養士がメニュー作成し、栄養バランスは取れている。個々に合わせて量を変えたり、キザミやミキサー食など食べやすいような食事になっている。水分・食事摂取量記載表を作成しており、必要な量はできるだけ確保できるよう支援している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行っており、声かけをして出来る方、仕上げ磨きを必要とする方、介助を要する方、さまざまであるが清潔に保てるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄の状態を時間毎に生活記録に記入している。訴えのある方はその都度誘導、訴えのない方は定時に誘導している。おむつのあて方を工夫し、無駄の無いように努めている。	
			(外部評価) 利用者の排泄のパターンに沿って声かけや誘導をして、トイレで排泄できるよう支援されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分を多く摂っていただくよう配慮している。散歩や体操で身体を動かしたり、おやつを工夫している。排便チェック表を作成しており、毎日、有無がわかるようにしている。便秘が続く場合は、主治医の指示のもと、下剤の服用もある。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週に2回と、ほぼ曜日と時間帯は決まっているが、本人の体調や気分によっては、曜日や時間をずらしている。汚染などある時もその都度入浴をされる。入浴中はプライバシーに配慮し、できるだけリラックスできるように気を配っている。	
			(外部評価) 季節によって菖蒲湯、ゆず湯、みかん湯等で香りを楽しみながら入浴できるようにされている。着替えは、ボタンの止め外し等、ご自分の力でできることは、時間がかかっても行えるよう、職員は見守るようにされている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 就寝時間は本人の意思を尊重している。眠れない時は、せかさずにゆっくりと話し相手になったりしている。	
			(外部評価)	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬ノートを作成、また一人一人の薬手帳があり、薬の名や用法、成分など一目でわかるようにしている。薬は一箇所にまとめて保管するようにしており、在庫も把握している。かかりつけ薬局の指導も月に2回あり、血圧や薬についての相談も随時行っている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 毎日の会話の中で、やりたいことを聞き出し、レクリエーションに取り入れたり、月ごとの歌を決めて、おやつ時に全員で歌う時間を設けている。簡単なお手伝いを役割として毎日して下さる方もいる。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	(自己評価) その日の希望には添えない事もある。日頃の希望を聞いておき、日曜日等にドライブ・喫茶店・外食に出かけている。近所の散歩へはできるだけ出かけるようにしている。家族の方にも協力を得、一緒に外出・お墓参り、買い物、など支援をいただいている。 (外部評価) 外出場所は、職員が提案して利用者と話しながら決めたり、以前出かけた時のことを話しながら決めることもある。お花見や系列の幸富久荘でのそうめん流し、喫茶店でケーキを食べたり、回転寿司等の外食にも出かけておられる。利用者同士で食べ物のお話をされていて、カップラーメンを食べてみたくなくて、買いに出かけて作って食べてみられた。調査訪問時、利用者は「みんなで分け合って食べたのがとても美味しかった。」と話して下さった。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご自分でお金を使える方が少ないため、持たれていない。買い物の際には、家族の方や本人と相談しながら職員側で対応している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 文字を書く事が出来る人が少ないため、自ら手紙を出す事は少ないが、毎月の小口預かり金明細送付の際に添える、一言メッセージや、はぶやまだより等で近況報告をしている。職員が電話をかけた後、家族からの電話で、本人に変わり、話をされることはある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>季節ごとに壁面を飾ったり、手作りのカレンダーを貼ったり、利用者が散歩に行かれた際、摘まれてきた花を飾ったりしている。場所がわかるように目印をつけている。天候により、明るさも調整している。あ</p> <p>(外部評価)</p> <p>居間は、南向きで明るく、調査訪問時はお天気もよく、ベランダには布団を干しておられた。時には、利用者は職員と一緒に洗濯ものを干したり取り入れたりされている。テーブルの上には、散歩で拾ったどんぐりで動物を作って飾っており、利用者のおしゃべりの話題にもなっていた。壁面には、お正月の飾り付けがされており、行事や外出の様子の写真に職員がコメントを付けておられた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ホールには大きなソファが置いてあり、皆が集まって話をしたり、テレビを見たり、思い思いにゆったりと過ごしている。南側の大きなガラス窓あたりでは、ゆっくりのんびり日向ぼっこできる場所もある。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>本人が使い慣れた家具や寝具、中には仏壇を置かれ、気持ちのよい所としている人もいる。お誕生日にお孫さんから送られた花をドライフラワーにして飾ったり、趣味の油絵を飾ったりと思い思いに工夫されている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室入り口には、職員手作りの表札を付けておられる。畳に布団を敷いている方や嫁入りたんすや仏壇を持ち込んでいる方もみられた。ご家族の写真やご自宅からの持って来られたアルバムを時々眺めたり、奥さんが来訪した際には、お二人で将棋を楽しむ方もいる。お花のお好きな方は、鉢植えを置き世話をされている。ナースコールを押すことが難しい方は、大きな鈴を鳴らせるよう枕元に置いておられた。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>居室や廊下には手すりがついており、車椅子の方も歩行される方も利用している。車椅子の方にとっては、少し廊下がせまいが、譲り合って生活できるよう、利用者が気を使っている。必要に応じ、居室にポータブルトイレを設置している場合もある。</p>	